

平成27年度 発達障害理解推進拠点事業  
成果報告書（概要版）

実施機関名（宮崎大学教育文化学部附属幼稚園）

1. テーマ

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性  
向上事業（発達障害理解推進拠点事業）

2. 問題意識・提案背景

拠点校となった宮崎大学教育文化学部附属幼稚園は、教員養成の実習校であるとともに、県下唯一の研究開発園であり、県下の幼稚園、保育所、認定子ども園に対して、指導を求められる立場にある。近年、県下の各園では、いわゆるグレーゾーンの子供への対応に苦慮しているといった声が聞かれる。そのため、同園では、特別な教育的支援が必要な子供への対応を含めた研究活動を行い、特に平成26年度は、特別な教育的支援が必要だと感じられる子供に対する、子供の行動傾向の客観的評価、特定の子供を対象としたカンファレンスを中心とした研究開発を行ってきた。

同園は、子供たちの通常の発達支援の教育プログラムあるいは、幼保小連携における就学前プログラムとして『コミュニケーションスキル(ソーシャルスキル)活動』を継続して行ってきた。さらに、平成25年度には、日本教育大学協会の研究助成を得て、ペアレント・トレーニングの幼保小連携版のプログラム開発研究を行った。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人宮崎大学	みやざきだいがくきょういくぶんかがくぶふぞくようちえん 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
学校法人萌育会	へいおようちえん 平和幼稚園
宮崎市	みやざきしりつきよたけようちえん 宮崎市立清武幼稚園
宮崎福祉会	あおぞらようちえん あおぞら幼稚園
学校法人純心学園	ひがしようちえん 東幼稚園

4. 拠点校における取組概要

1. 拠点校内職員研修

「幼稚園・保育所で実践可能な集団適応支援プログラム特定研修」では、一部、異動のあった職員も含めて、発達障害のある子供の理解、対応、SST、ペアレント・トレーニングの技法などの確認を行うことができた。

和洋女子大学の前田康弘先生をお呼びし、本事業で行った拠点校の事業内容をプレゼンし、今後発達障害の理解推進を発展させていくためのご指導をいただいた。

鹿児島大学教育学部の肥後祥治先生をお呼びし、本事業で行った拠点校の事業内容のプレゼンを提示し、今後発達障害の理解推進を発展させていくためのご指導をいただいた。

## 2. 拠点校の保護者向け研修

鹿児島大学教育学部の肥後祥治先生をお招きし、保護者を対象に「発達障害の特性の理解」についてご講演をいただいた。

## 3. 宮崎県内の教職員等への研修、技術指導

以下に示すように、多くの研修・技術指導を行った。

- 県内の教職員向け研修「特別な教育的支援を必要とする幼児の集団介入」を行った。
- 小林市学習指導及び生徒指導相談充実事業 講演「通常の学級における特別な教育的支援を求めている児童生徒の理解と指導・支援」、宮崎県家庭教育指導員養成研修における、「グレーゾーンと目される子供の理解とカンファレンスを介した対処」の講義宮崎市ペアレントトレーナー養成講座における、「グレーゾーンと目される子供の理解とカンファレンスを介した対処」の講義
- 拠点園の研究公開の分科会において、県内の保育者を対象に、本事業における取組の概要を説明し、特に幼保小連携版のペアレント・トレーニングが就学時の発達障害をもつ子供への効果の説明を強調して行った。
- 宮崎県小林市の、『0歳児からの教育教材検討委員会』の成果発表会において、県内の先進的な発達障害の理解と支援のための事業として、本事業の内容を紹介した。
- 平成27年度幼稚園・保育所主任教諭研修会にて、発達障害児の心理的・社会的不適応の状況を概説し、SST介入の演習を行った。
- 幼保小連携版PT集団介入特定研修(幼児版認定PTトレーナー、特別支援コーディネーター)を行いトレーナーを養成した。

## 4. 開発・試行的な事業活動

平成26年に引き続き、拠点園内で、幼保小連携と『育ちのファイル』『相談支援ノート』を作成して配布した。また、強化介入の試みとしてニューズレター『いろいろな子どもたち』を配布した。

## 5. 主な成果

### 1. 拠点校内職員研修

和洋女子大学の前田康弘先生をお呼びして今後発達障害の理解推進を発展させていくためのご指導をいただいた。特に発達障害をもつ子供の身体運動と身体運動感覚の発達を支援する保育方法の考え方についての知見は、今後の保育の中での発達障害の子供の理解と支援に用いることのできる新しい知見となった。

鹿児島大学教育学部の肥後祥治先生をお呼びして今後発達障害の理解推進を発展させていくためのご指導をいただき、今後発達障害の理解推進を発展させていくためのご指導をいただいた。特に本事業内で行っている、幼保小連携版ペアレント・トレーニングのトレーナー

養成を中心とする、ペアレント・トレーニングのシステムを評価していただき、双方の技法を紹介しあうしながらミニシンポジウムのような形での情報交換が行われた。多くの技術的な示唆とともに、今後、拠点園を中心として、発達障害の疑いのある子供の支援やインクルージョンを展開していく意欲を高めることができた。

#### 2. 拠点校の保護者向け研修

鹿児島大学教育学部の肥後祥治先生をお招きし、保護者対象のご講演をいただいた。おもに、「発達障害の特性の理解」についてお話しいただいた。錯視図版などを用いて、感じ方の個人差から発達障害の子供の状態像を示していただき、保護者たちも具体的な理解を深めることができた。

#### 3. 宮崎県内の教職員等への研修、技術指導

成果の欄に示したように、多くの研修・技術指導の活動を行った。この中で、平成26年度の本事業で懸案として残された、SSTに関する技術指導を、県内の教職員向け研修「特別な教育的支援を必要とする幼児の集団介入」および、平成27年度幼稚園・保育所主任教諭研修会で行い、SSTの実践的な指導を行うことができた。

平成26年度に引き続いて行った、幼保小連携版PT集団介入特定研修(幼児版認定PTトレーナー、特別支援コーディネーター)では、平成26年度と合わせて計54名のトレーナーを認定した。一部は、年度内においてすでに支援活動を開始した。

#### 4. 開発・試行的な事業活動

平成26年に引き続き、拠点園内で、幼保小連携と『育ちのファイル』『相談支援ノート』を作成して配布し、強化介入の試みとしてニューズレター『いろいろな子どもたち』を配布した。拠点園内では、すべての保護者が『育ちのファイル』および『相談支援ノート』それぞれ必要事項を記入して保有し、一部必要に応じて『相談支援ノート』活用もなされたとの報告が得られた。

## 6. 今後の課題と対応

他県に比べて、SSTやペアレント・トレーニングなどの、発達障害をもつ子供のための先進的な取組の普及が比較的高い地域ではある。そのために、知見や技術普及が行き届いている園や学校とそうでない施設との格差が大きいという見方もできる。今後も、地道な、知識と技術の普及に努めて行きたい。

『育ちのファイル』および『相談支援ノート』の普及、特に『相談支援ノート』がうまく活用されていくために、記載内容や方法の面での工夫が必要なことが課題として挙げられる。今後の課題として追求していきたい。

## 7. 問い合わせ先

組織名：宮崎大学

- |             |  |
|-------------|--|
| (1) 担当部署    | 教育文化学部   |
| (2) 所在地     | 学園木花台西1-1  |
| (3) 電話番号    | 0985-58-7461   |
| (4) FAX 番号  | 0985-58-7461   |
| (5) メールアドレス | <a href="mailto:s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp">s-tatsu@cc.miyazaki-u.ac.jp</a> |